

研修報告 E班3グループ!!

「学生と社会をつなぐための ICT!!」

ステップ1 気づき、発見

情報提供を受けての気づきや感想として、以下のことがあげられた。

- これまで目標を把握せずに実施していた e-ポートフォリオが学生の学習意欲向上につながっているということへの驚き
- 大学ポートレートに取り組んでいるが、公表することが有効だと思う反面、公表することでのデメリットもあるのではないかという不安
- 授業支援のシステムだけでは支援しきれない学生もいる。それに対して教員と職員が協力してきめ細かい支援をすることも重要
- 大学として何かに取り組む際の、大学のポリシーの大切さ
- 18歳人口の減少への取り組みとして、従来の大学入学年齢にとらわれず、社会人入学枠や通信教育の充実があるという発見
- 目標、目的、手段を明確にすることの重要性

ステップ2 討議と成果のまとめ

以下の手順に従ってグループ討議を進めた。

(1) テーマ設定

まず、大学の役割について考えた。各大学の建学の精神をあげ、その中で共通するものを探した結果、将来社会に求められる人材を育てることが大学の役割であると意見が集約された。

それに応えるために大学がすべきことは多々あるが、その中でも大学で得た知識・技能を社会で試してみる場、失敗を経験できる場を提供することが重要であると考えた。

しかし、現状を見つめ直したところ、学生・職員・教員それぞれ以下のとおりであることがわかった。

- ・学生：大学で学んだ知識が社会でどのように活かされるのかわかっていない。
- ・職員：縦割り組織であるため、大学全体として取り組めていない。
- ・教員：専門分野の研究には長けているが、それを社会でどのように活かせるか、学生に示せていない。

上記の目標と現状の差を埋めるべく、学生が社会でやってみたいこと・現在取り組んでいること、社会（地域）が求めていること等の情報を集約する必要があるという結論に至った。そして、グループ討議のテーマを「学生と社会をつなぐための ICT!!」に設定した。

(2) 問題点の深掘り

設定したテーマをもとにあるべき姿と現状の違いを列挙し、その違いがなぜ起きているのかを考えた。その結果、学生・大学・社会それぞれの問題点が見えてきた。

- ・学生：社会で自分たちが活躍できるという発想がない。
大学で学んでいることの活かし方がわからない。
何かやりたいが、やりたいことが具体的にわからない。
- ・大学：社会と一緒に学生を育てるという視点がない。
学生・社会双方へのアプローチの仕方がわからない。
- ・社会：大学へのアプローチの仕方がわからない。
大学がやっていること、何ができるかがわからない。

(3) 解決策の検討

上記であげた問題点を解決するために、大学として、学生・社会双方の**情報の共有、発信ができるコミュニケーションツールの提供**に取り組みたいと考えた。例をあげると、将来カフェを経営するためにマーケティングを学んでいる学生と、新商品を開発したいと考えているカフェの経営者がいたとする。これらの情報を大学で集約しておくことで、その学生とカフェの経営者にお互いを紹介することができ、学生へ実践の場を提供することができる。学生は、大学で学んでいることがどのように社会で活用できるのかがわかる上、実績を残すことにより自信がつく。また、実際に社会に出てみて初めて自分に足りないものに気づくことができる。これこそ、我々が最初にあげた大学がすべきことなのではないかと考える。

また、この取り組みを実施する上で重要になってくることについて考えたところ、利用者の確保があがった。学生・社会双方の情報が集まらないことには、このツールは活用できないためである。これに対しては、大学から双方に情報提供の呼びかけが必要となる。

そして、この学生と社会を ICT でつなぐ取り組みにより、我々が当初掲げた大学の役割を果たせると同時に、学生・大学・社会それぞれに以下のメリットを生むのではないかと考えた。

- ・学生：大学で学んだことを実践できる。学習意欲が向上する。自信がつく。
- ・大学：人材育成の場を確保できる。社会との連携を強化できる。
- ・社会：地域を活性化することができる。大学のシーズを活用できる。

実現できればこのようにメリットは多くあるが、今回の討議では出てこなかった問題点や課題も多々ある。より広く深く検討しそれらの解決策まで考えることで、多くの人に活用してもらえ環境を整えることも重要であると考えます。

以上